



サンタさんはなぜ赤い服を着る？

3年生 北清掃工場見学

校長 竹下 昌之

令和元年になって初めての年の暮れを迎えました。

さて、12月と言えば「クリスマス」。赤い服を着て白い髭（ひげ）をはやしたサンタクロースの姿が、街のいたるところで見受けられます。

サンタクロースは、今から約1600年前（4世紀頃）、小アジア（今のトルコ）のミュラの司祭（カトリック教会の神父様）だったセント・ニコラスという人が、そのモデルだと言われています。

ところで、ニコラスとサンタクロースの赤い服・煙突・靴下とどう結びつくのでしょうか？

ニコラスはとても心の優しい人で、ある夜、3人の娘がいる貧しい家に、こっそりと金貨3枚を投げ込みました。ところが、金貨は暖炉のそばにたまたま干してあった靴下の中に落ちました。翌朝になって金貨を見つけた娘たちは、飛び上がって喜びました。

この話を聞いた近くに住む人々は、同じように金貨を投げ入れてもらおうと、われもわれもと靴下をつるし始めたというのです。

また、サンタクロースが煙突から入ってくるというのは、寒い北ヨーロッパ地方の言い伝え（伝説）から起こっています。

ノルウェーやスウェーデンなどスカンジナビア半島の国々の農家では、昔から「屋根裏に、とんがり帽子をかぶった赤い服の小人が住んでいて、クリスマスの晩に教会の鐘を鳴らすために煙突から出入りする」と伝えられています。

そんな話を参考にして、アメリカ人のトマス・ナストという漫画家が1863年（今から156年前）、皆さんのが今日よく見る「とんがり帽子に赤い服を着て、白い髭をはやした」サンタクロースの絵を描いたのが、その始まりだということです。

なお、北欧の国アイスランドでは、何と13人のサンタさんがいるそうです。

ふだんは山の中に住んでいて、12月12日から毎日一人ずつ街に降りてきて、一人ずついたずらをするそうです。どんないたずらをするのでしょうか。

その国のサンタさんのかっこうは昔の農夫みたいな姿をしていますが、中にはアメリカの影響を受けて最近では赤い服のサンタさんもいるそうです。そのサンタさん、クリスマス・イブに13人目が山から降りてきて、つぎの日から一人ずつ山に帰ります。さてここで問題です。

Q：「13人目のサンタさんが山に帰るのは何月何日でしょう？」

A：①年を明けた1月5日 ②1月6日 ③迷子になって帰れない

そうです、②が正解です。おもしろい国ですね。

最後に、皆さんも知っているように赤道をはさんで南の方にある国、オーストラリアやニュージーランドは今夏真っ盛りです。その国のサンタさんは、連日24～25度ぐらいの気温の中で日本と同じかっこうで歩いているそうです。さぞ、汗びっしょりのことでしょう。